

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 真誠樹会
施設名	セルホーといた保育園
報告者（役職）	東方 珠美（園長）
住所・連絡先	石川県金沢市戸板2丁目102番地
	☎ 076-210-7070
	E-mail honbu@shinseiju-kai.or.jp

○タイトル（保育計画）

セルホーといた忍者修行
～どこでもいける、なんでもできる、カラフル忍者～

○主な助成備品

バランスボード、バルーン、ソフトフォーミングセット、マジックマット
ゲームボックスアクティビティセット

1. 保育計画策定の目的

2020年、金沢に新しく開園した当保育園は、令和の時代にできたからこそ、従来の保育ではなく、今の時代の保育とは何かを職員一同で考えながら進めてきました。1年経った頃から、子どもたちを集団で動かす保育ではなく、子どもたちが自らやりたいことに取り組み、そこで飽きるまで没頭して遊べる保育を目指すことにしました。コロナをきっかけに、保育園でも3密を避ける、分散型の保育が模索される中で、当園が目指す保育の形がその一助になると考えます。

子どもたちは、廃材や段ボールを活用するなど今あるもので工夫して遊ぶ姿が見られますが、もっと「やってみたい、できる」という体験が沢山おこなわれるためにも、積み木や大型玩具が必要であると考えます。楽しい、もっとしたいという意欲が、子どもたちの体力向上、社会性につながると思います。環境を整え、子どもたちの自ら生きる力、人間力を育てたいと考えました。

2. 具体的な実施内容

（初めて見る大きな玩具）

大型の玩具を常に遊べる状態でホールに設定しておくことで、まずは、視覚で「楽しそう。やってみたい。カラフルで可愛い」と子どもたちの触ってみたい、遊んでみたいという意欲が高まりました。



0、1歳児は、手で触り玩具を確認し、上に乗って動かしてみる。また、保育士とくぐってみる、座るなどの行動が見られました。2歳児以上は、おそろおそろ上に乗ってみて、自分のできる場所で、自分ができるところに挑戦する姿が見られました。初めはできなかったことも、少しずつできることが自信に繋がりました。じゃんけんゲームなど、ルールのある遊びも取り入れ、他の玩具と合わせて遊ぶなど無限に広がる玩具の面白さに気が付き、友達と意見を出し合い、話し合いをする姿も見られました。



〈忍者に変身、修行に出かけよう〉

石川県には、忍者寺があり、子どもたちは忍者ごっこが大好きです。一番好きなのは忍び足です。誰にも見つからない様にそっと歩く子どもたちです。友だちと話し合いをして歩き方や忍術を考えていました。

- ① 足並み（音を立てず、忍び足をする）
- ② 忍者走り（前傾姿勢、片手を前に、逆の手は後ろにして、小走りする）
- ③ すいとんの術（腹ばいになりトンネルをくぐる）
- ④ みずぐもの術（マットの上をバランスをとって歩く）
- ⑤ きんとんの術（途中ジャンプして音を鳴らす）
- ⑥ 分身の術（素早く走り抜ける）



忍者に変身すること、なりきって遊ぶことにより、自分の持っている力を最大に発揮することができます。

〈大人も楽しく～気持ちもリフレッシュ～〉

子どもたちが健康で元気にいることが保護者の方の幸せです。大人の笑顔が子どもの笑顔になります。子どもの元気が大人の元気になります。今回は、保育参観での玩具の開放をしました。玩具に実際に触れて、安全性を確認することが、子どもを預ける保育園の安心になりました。

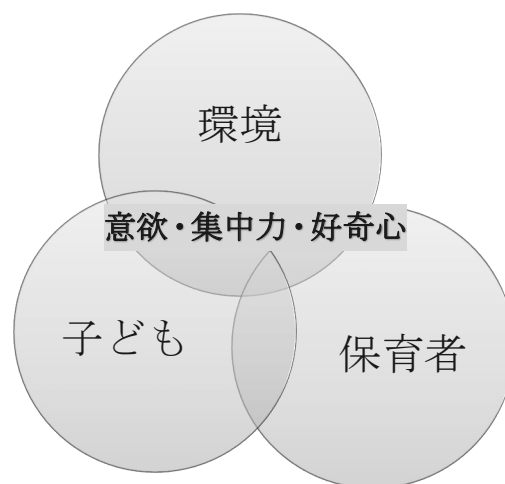
また、保護者の方全員でのボール遊びは、子どもも大人も元気に遊ぶことができ、みんな大きな輪、大きな笑顔が見られました。みんなが繋がるきっかけになりました。



3. その成果と評価

自分たちで玩具を組み立てて、何通りにも遊べる玩具は、子どもたちにとっては魅力的なものです。遊びの中で「なりきること」で自己肯定感を高めます。平衡感覚やバランス運動など年齢に応じて、また個人においての発達の段階により変えることができ、自分がどれくらいのことのできるかを考えながら挑戦することができました。それらの、自分で決める挑戦は、誰かに与えられてする遊びとは違い、達成感、満足度を多く味わうことができます。さらに、小さい子は大きい子の遊びを見て学び、成長していくと思われれます。

保育者は、子どもたちが遊ぶ中で、仕草や視線、微妙な行動や動きを通して、「今、これが



したい」という発達のサインを見逃さず、環境を設定してきました。環境を整えることができれば、子どもたちは主体的に遊びはじめ、集中してやりたいことを繰り返すことができ、今持っている力がより発揮できるのです。その繰り返しこそが、意欲や集中力、好奇心につながります。

4. 今後の課題と展望

保育園の子どもたちは、0歳児から5歳児と年齢の幅もあり遊びも違ってきます。また、子どもたち、一人一人の成長のスピードも違えば成長も違います。今回のバランスボードをはじめとする運動用品は、すべての年齢での使用が可能で個々にあった遊びの設定ができました。

これからも、子どもたちと保育士、環境（遊具）が一体となり、保育を進めて未来の子どもたちの育成につなげたいと思います。

以上